

No. 02

平成12年度青年海外協力隊
パプア・ニューギニア巡回指導調査報告書

JICA LIBRARY



J1165208(8)

平成13年6月

国際協力事業団

青年海外協力隊事務局

青海二

JR

01-09

JICA
206
36
JV2
BRARY

目次

1	調査団名	P.1
2	調査期間（全体）	P.1
3	団員構成	P.1
4	調査目的	P.1
5	調査方法	P.2
6	調査行程	P.2
7	主な面会者	P.4
8	調査内容	P.5
	（1）治安状況	P.5
	（2）PNG 事務所との協議内容	P.6
	（3）隊員活動現場等視察	P.7
	（4）識字教育事情	P.11
	（5）要請背景調査	P.12
	（6）ラバウルにおける危機管理体制	P.12
9	所感	P.12

参考資料：

- （1）隊員配置図
- （2）調査写真



1165208(8)

1 調査団名

平成12年度青年海外協力隊パプア・ニューギニア巡回指導調査団

2 調査期間（全体）

（大洋州地域青年海外協力隊調整員会議出席の後）

平成12年10月28日～同11月4日（8日間）

3 団員構成

氏名	担当業務	所属	派遣期間
やまぎわ よういち (1) 山際 洋一	派遣計画	国際協力事業団 青年海外協力隊事務局海外第二課長代理	10/28～10/30
たなか おさむ (2) 田中 理	現地調査	国際協力事業団 青年海外協力隊事務局国内課	10/28～11/4

4 調査目的

(1) 教育分野における協力

現職教員特別参加制度の発足による教員隊員の派遣増が見込まれ、また帰国隊員の積極的な教員採用等、日本国内における文部科学省をはじめとする関係各機関の支援の増大という背景を踏まえ、教育・人材開発分野での協力を中心とするパプア・ニューギニア（以下「PNG」という。）での隊員の活動内容を把握し、今後の募集広報業務と隊員派遣要請の一層の連携を図る。

(2) 識字教育隊員の派遣可能性

新規職種である「識字教育」隊員の派遣可能性について、現地状況に関する情報を入手するとともにPNG事務所の意見を聴取し、今後の検討材料とする。

(3) 治安状況及び安全対策

PNG内の治安について、最新の状況を調査して情報収集を行い、今後の隊員派遣計画の策定、危機管理体制の一層の強化及び隊員候補生等に対する日本国内での情報提供等に資するものとする。

5 調査方法

(1) 隊員活動現場視察による調査

特に教育分野における PNG 内の隊員活動現場視察を行い、教育・人材開発分野での我が国の協力を今後推進するにあたって課題及び留意点を把握する。なお、教育分野隊員に限らず、極力多くの隊員と面会し、意見聴取することで今後の隊員の活動を理解し、今後の募集広報業務に役立てる。

(2) 要請背景調査

協力隊員派遣要請のあった高校を訪問し、PNG の教育事情の理解を図る。また、以前隊員が活動していた識字教育普及に関する出版センターを訪問して同国の識字教育事情を調査する。

(3) PNG 事務所との協議

PNG 事務所と協議を行い、同国特有の治安問題と同事務所の対策及び教育事情等を把握する。

6 調査行程

	日付	時刻	業務内容	宿泊地	備考	
1	10/28 (土)	09:15	シドニー発	P	QF095 便	
		11:15	ケアンズ着		O	PX099 便
		13:45	同発			
		15:10	ポート・モレスビー着 (以下「POM」という。)			
		15:30	ホテルチェックイン	M		
		16:00	POM 市内視察			
		18:00	ホテル着			
2	10/29 (日)	09:15	ホテル発	P	星野職員	
		09:30	事務所概要説明	O	松井 CC	
		10:15	安全対策ブリーフィング	M	亀井 MC	
		11:15	マラリア対策ブリーフィング			
		13:00	ソロモン駐在員事務所長面談			
		16:30	ホテル着			

3	10/30 (月)	07:20 07:30 09:20 09:55 11:20 11:45 13:00 14:30 15:15 17:10 18:30	ホテル発 空港着 田中・清水 CC、POM 発 山際、POM 発 (帰途) (以下、田中団員・清水 CC のみ) 田中・清水 CC、ゴロカ着 ホテルチェックイン ゴロカ大学 東ハイランド州 1 次産業局 カビウファ高校 二瓶隊員宅 ホテル着	ゴ ロ カ	PX1180 便 *フライト変更 PX090 便 富山隊員 小山隊員 要請背景調査 二瓶隊員
4	10/31 (火)	07:30 09:20 12:20 17:00 18:15	ホテル発 アイユラ淡水養殖開発センター ヨンキー網生け簀ステーション 森林研究所 ホテル着	レ イ	(陸路) 久間専門家 渡部隊員 河津隊員
5	11/1 (水)	07:45 07:55 09:00 12:05 14:30 15:20 17:30	ホテル発 識字教材出版センター着 空港着 (清水 CC、レイにて引き続き調 査) レイ発 (以下、田中団員のみ) ラバウル着 マラグナ工業高校 ホテル着	ラ バ ウ ル	識字状況調査 PX208 便 *遅れ 飛鳥馬隊員 渡辺隊員
6	11/2 (木)	08:00 08:30 11:50 14:00 15:05 16:35 17:00 17:05	ホテル発 セント・メリー高校 ブナボスコ農業技術学校 空港着 ラバウル発 POM 着 ホテルチェックイン 日程打ち合わせ (ホテルにて)	P O M	篠崎隊員 関隊員 市岡隊員 松尾隊員 PX273 便 清水 CC

7	11/3 (金) 祝日	午前 12:45 13:00 16:00 16:20 18:25 19:50 20:30	資料整理・報告書作成 ホテル発 調査報告 事務所発 空港着 POM 発 ケアンズ着 ホテル着	ケ ア ン ズ	ホテルにて PNG 事務所 PX098 便
8	11/4 (土)	10:00 10:30 12:40 19:00	ホテル発 空港着 ケアンズ発 成田着		JL768 便 帰国

7 主な面会者

(1) PNG 事務所

岩崎薫 所長
 星野明彦 職員
 松井信晃 協力隊調整員
 清水直樹 ボランティア調整員
 亀井みゆき 協力隊医療調整員

(2) 協力隊員活動現場（訪問順）

●ゴロカ大学

Dr. M. Solon, Vice Chancellor
 Mr. John Thomas, Assistant Librarian
 富山直人 隊員（10年度3次隊・システムエンジニア）

●東ハイランド州1次産業局

Mr. Sailas David, Fishery Officer
 小山徹 隊員（12年度1次隊・養殖）

●私立カビウファ高校

Mr. J. Taos, Principal
 Mr. Johnson Formu, Teacher

●二瓶隊員自宅

二瓶壮三 隊員（11年度2次隊・照明）

●アイユラ淡水養殖開発センター

久間千秋 専門家（淡水魚養殖）

● ヨンキー網生け簀ステーション

渡部貴聴 隊員（11年度3次隊・養殖）

● 森林研究所

小川慎司 専門家（森林経営）

河津光成 隊員（11年度1次隊・きのこ）

● 識字教材出版センター

Mrs. Bing Sawanga,

Provincial Co-ordinator for Literacy/Elementary Programme

● マラグナ工業高校

Mr. Brian Lock, Headmaster

飛鳥馬隆二 隊員（11年度3次隊・木工）

渡辺正樹 隊員（11年度3次隊・自動車整備）

● セント・メリー高校

Mr. Boniface Setavo, Headmaster

篠崎一馬 隊員（11年度2次隊・木工）

関和浩 隊員（11年度2次隊・理数科教師）

● ブナボスコ農業技術学校

Fr. Ariel Macalangay, Rector

Br. Redentor Coloma, Principal

市岡憲介 隊員（12年度1次隊・体育）

松尾実志 隊員（11年度2次隊・野菜）

8 調査内容

（1）治安状況

首都 POM の人口は、多くの異なった地方の出身者で構成されており、一部地域ではセトルメント（不法滞在者の集落で、収入の低い又はない地方出身者が同郷を頼って生活している。）が形成されている。日没後は、ラスカルと呼ばれる強盗団が出没しており、現地の人々にとっても危険であるため、商店や食堂は早めに閉め、通りを歩く人もかなり少ない。また、日中でもマーケットやバスターミナル等の人が集まる場所での一人歩きは避けた方が良いとされる。ただし、ラスカルに対しては、無抵抗で金品を渡せば身の安全は守れることが

多い。一方、住宅における空き巣等による事件も度々生じているので、現在のところ、隊員の住居には厳重な防犯措置が施され、また、各自が危険な行動を慎んでいるので、怪我を負う程の大きな被害は少ないが、首都隊員の中には何らかの危険を感じたことがある者も多い。(参考資料(2)「調査写真ア」参照。)

首都及び第2の都市・レイを除いた地方においては、ラスカルへの最低限の警戒と遭遇したときの適切な対応は必要であるものの、その危険性は大都市と比べれば大分低い。特に、ニューブリテン島のラバウル(現在8名の隊員が活動中)周辺は、部族の混交が少ないためか、治安状況は落ち着いている。ただし、ハイランド地方では、部族間の緊張が高く、抗争も頻発しているので、抗争に巻き込まれないように周囲の状況確認・雰囲気の変化には注意が必要である。

上記の治安状況を踏まえた PNG における安全対策及び本調査における所感については、以下(2)イ及び9(4)を参照されたい。

(2) PNG 事務所との協議内容

ア PNG における協力について

PNG では「トップ・アップ改革」によりこれまで国内に数校しかなかった11・12年生の中等教育を強化することとなったが、11年生以上の課程を担当できる教員の養成機関が限られており、慢性的に教員が不足している。さらに、同国の公立校教師の賃金は低く、教員の資格を取得する程の教育を受けた者は、より条件の良い一般企業に勤めるか海外へ出てしまうので、教師不足に拍車がかかっている。一方、協力隊員の活動分野に関し、英語教育が必要となる初等教育よりも、7～8年生以上の中等教育での理数教科教師が主力となる。

イ 安全対策

安全対策に関しては、赴任時に入念なオリエンテーションを行い、防犯に必要な知識の理解及び行動を促している。住宅について、赴任前に調整員が現場を確認し、必要に応じて補強措置を施すが(ただし、施工が遅れることがある)、多くの場合は十分な防犯設備がなされている。また、小回りの利く単車は都市での防犯の意味もあり(徒歩より暴漢に襲われにくい、犯罪の危険性の高い公共のバスを避ける、ロードブロックに合っても

Uターンできる等)、POM では業務の必要性のほかに安全対策を貸与の理由のひとつとしている。その他地方での単車貸与基準は現在見直しを図っている最中である。

なお、近隣の協力隊員派遣国からの任国外旅行者の受け入れについては、現地の状況を熟知する隊員が、危険回避のために性別を問わずアテンドすることになっている。これについて、一部の隊員から責任問題を危惧する声もあるので、隊員に責任を負わせることが目的ではなく、現地状況をよく知る隊員の案内が防犯対策になるという理解の促進が必要である旨、調査団から事務所に提案した。

地方における安全対策については、PNG 事務所では今後極力1人任地を減らし、僻地をなくしていくことで、緊急事態への即応を実現し、また隊員活動における相互の連携を強化する方針でいる。

(3) 隊員活動現場等視察

ア 富山直人 隊員 (10年度3次隊・システムエンジニア)

配属先は当初、PNG 大学の教育学部として発足し、1995年に教育学部・人文学部・科学部を擁するゴロカ大学として独立した。富山隊員は同学図書館にて図書検索システムのネットワーク構築を担った前任の後を継ぎ、ネットワークの拡大を担当する。配属先の評価は高く、関係も良好な様子である。

後任隊員について、大学からは大学全体の LAN システムの完成が期待されているものの、富山隊員の所属が図書館であり、また、カウンターパートが図書館司書であることから、カウンターパートが図書館のネットワーク強化を希望している。図書館のシステムは必要な程度には既に完成しており、全学的なシステムの完成が急がれているところ、後任隊員は図書館ではなく、全学をサポートするメディアセンター配属が必要である。このため、後任隊員の配属先について学内の調整が課題となっている。

イ 小山徹 隊員 (12年度1次隊・養殖)

約 100カ所の農家を巡回し、養殖用池掘りから稚魚の育成・販売まで幅広く助言を行っている。当地では、養殖は産業として存在していなかったが、実際に鯉や鱒等を販売すると需要があることが分かり、新しい産業としての成長が期待されている。このため、同隊員は養殖業の普及を今後の

活動の目標としている。また、活動当初からピジン語の使用に努め、その積極姿勢は配属先から高く評価されている。なお、応募時に本人が不安と
していた社会経験の無さや技術力については、前向きな努力により克服し
つつあり、同隊員は極めて落ち着いて活動に励んでいる。

他方、自動車で約2時間のアイユラで活動する久間専門家（養殖）との
連携も順調で、アイユラでの餌購入に依存する現在のゴロカ農家が餌を自
給できる状態にすることも今後の活動目標としている。

ウ 二瓶壯三 隊員（11年度2次隊・照明）

二瓶隊員が所属するラウンラウン劇団は以前は各地を巡業し、社会・文
化的なテーマの演目を上演していたが、近年は活動が不活発になっており、
巡業はなくなってゴロカで小さな演目を上演している。特に団長が本年10
月から自宅謹慎（理由について隊員に質問したが、知らされていないとの
こと。）になっており、団員の士気は低い。しかしながら、かかる状況にお
いても、二瓶隊員は業務そのものを楽しんでおり、また、劇団内では最も
若いことから他の団員から親しまれている。現在、同隊員は照明及びポス
ターの作成を担当しながら、副団長と劇団の運営についても話し合いをし
ており、任期の後半は、所属先の体質改善が同隊員の課題となっている。

エ 渡部貴聴 隊員（11年度3次隊・養殖）

アイユラ淡水養殖開発センター（渡部隊員の配属先から車で約30分、久
間専門家（養殖）の所属先）から鯉の稚魚を卸し、育成して販売活動を行
っている。カウンターパートは、日本で研修を受けたこともあり、極めて
優秀で、同隊員の活動も充実している。しかしながら、資金管理・人材登
用等の面で配属先に問題があり、組織体質の改善が今後の課題となってい
る。

また、同隊員の活動するヨンキーダムが鉍毒に汚染されている可能性が
あり、現在、水質検査の結果を待っている。仮にダムが汚染されている場
合は、活動の中止・任地の変更を余儀なくされる恐れがある。（参考資料
（2）「調査写真イ」参照。）

なお、ゴロカ（自動車で約2時間）の小山隊員（養殖）とともに、近隣
の久間専門家との交流も盛んで、両隊員ともに助言を受けながら、良好な
関係を築いている。

他方、同隊員からは、JICAの方針が見えにくい、規程や予算の制約が大

き過ぎるのではないか等の指摘を受けた。調査団からは、同指摘を今後の検討課題としつつも、同隊員に対しては、定められた条件の中で最善を尽くすよう、説明し、理解を得た。

オ 河津光成 隊員（11年度1次隊・きのこ）

活動開始後1年を経た本年8月、資機材の盗難等、活動環境の悪化により、任地変更となった。JICAの無償資金援助により建設された現在の配属先では、しめじを使用して菌糸の培養・育成実験を行っており、これらの実験データを基礎資料として、PNGに存在している菌種での実験・培養技術の確立を目指している。活動は公私ともに順調だが、現在のところは1人で活動しており、カウンターパートの発掘を配属先に依頼している。

また、任期の半分で任地変更をし、現在の配属先が協力隊員派遣先として適正かどうかを見極めるのに時間を要するところ、同隊員は活動期間の延長を希望している。調査団からは隊員活動の任期延長は原則的になくなり、同隊員の任期延長には検討を要する旨を説明した。

なお、任地変更に伴い必要となった新しい住居の敷金1,430キナ（同国の隊員生活手当1カ月分強）について、返還される費用であることを理由に、協力隊事務局から借りることができず、同隊員の生活を経済的に圧迫している旨、同隊員から報告があり、同様の問題が今後発生した場合の対応を検討する必要がある。

カ 飛鳥馬隆二 隊員（11年度3次隊・木工）

渡辺正樹 隊員（11年度3次隊・自動車整備）

オーストラリア人校長が運営する工業高校で両隊員がそれぞれ木工及び自動車整備担当の教師として活躍している。同校では9年生で自動車整備・溶接・家庭科・木工の4分野の基礎を学び、10年生で上記4つのうちひとつを選んで履修する。両隊員ともに週に4日間フルタイムで授業を持っており、校長の信頼も厚く、充実した活動ぶりである。問題としては、約500人の生徒を23名の教師が受け持っていることから、教員不足があげられる。この状況により、校長からは3人目の隊員として溶接の教師派遣を希望している。しかしながら、両隊員とも既に3代目であり、労働力供給として協力隊員が個々の学校経営のために継続的に派遣されることには疑問があり、調査団からは、教員の自前の確保の努力を促した。（参考資料（2）「調査写真ウ・エ」参照。）

キ 篠崎一馬 隊員（11年度2次隊・木工）

関和浩 隊員（11年度2次隊・理数科教師）

両隊員が活動するセント・メリー高校は、1994年の火山噴火の影響でラバウル市内から南へ約25kmほどの現在の場所に移動した。生徒数は500名弱で、そのうち約200名が寄宿生である。教師数は定員の18名に加えて協力隊員2名と米国平和部隊隊員1名（理科教師）の合計21名である。PNGの人材不足は同校でも同様で、教員の確保が今後の課題となっている。

関隊員は、週に26時限の理科・数学・体育を担当している。応募時に経験の不十分さを不安に感じていたが、数学の授業を視察したところ、実に堂々たる授業ぶり、英語も流暢になっていた。時折冗談も交えた同隊員の授業は活気があり、生徒たちからも慕われている様子であった。一方、篠崎隊員は週に24時限を受け持ち、現在は9～10年生用の教科書づくりにも取り組んでいる。

両隊員ともに業務は順調で、日常生活においても街までの交通手段がスクーター、トラック、バス、単車と充実しており、特に問題はないという。ただし、篠崎隊員から、技術月刊誌が購読できないと、帰国後のための就職情報が入ってこず、電話線がないことによりインターネットもできないので、将来の進路開拓に支障をきたしているとの報告を受けた。また、木工隊員として派遣されたものの、想定されていなかった教師としての業務には、若干不満も感じられたが、前向きに活動している様子であった。今後、選考時に要請の内容を受験者に十分に確認する必要がある。なお、同隊員の後任には技術科教師が妥当と考えられる。（参考資料（2）「調査写真オ」参照。）

ク 市岡憲介 隊員（12年度1次隊・体育）

松尾実志 隊員（11年度2次隊・野菜）

両隊員が活動するブナボスコ農業技術学校はフィリピン人のカトリック教会系の学校で、同様の学校が全世界100カ国にあり、PNG内には6校ある。同校には約500名の男子生徒が在籍している。NGOの学校なので、他の公立校ほどの政府からの補助金はなく、経済状態は厳しく、教師数も不足している。その中で、市岡・松尾隊員はそれぞれ13時限・24時限の授業を担当しており、精力的に取り組んでいる様子である。

課題として、松岡隊員からは言葉の上達と、日本にはない野菜の栽培方

法の習得がある。一方、市岡隊員からは、PNG では体育が教科として認められない学校が多く、また、日本でいう中・高校くらいの生徒が体育を始めることは無理があるという。このため、同国における体育教育は小学生低学年から始めるべきで、体育隊員の活動形態もそれに沿うものが望ましいとのことである。

他方、配属先の教師のほとんどがフィリピン人であり、生徒以外に接するのはフィリピン人が主である。赴任先の土地の人々と生活・仕事をともにするという協力隊の基本方針を考えると、隊員は多数の現地生徒に囲まれているものの、同校のような職場環境への隊員派遣には今後議論を要するものと思われる。(参考資料(2)「調査写真カ」参照。)

(4) 識字教育事情：識字教材出版センター訪問(レイ)

PNG に存在する部族語は 820 を越えるといわれ、識字率の低さ(約 45%、1990 年調査)が同国の開発全般に支障をきたしており、識字率の向上は国家政策のひとつとなっている。識字教材出版センター(以下「LAMP センター」(=Literacy Awareness Material Publishing Centre)という。)によると、同国の公用語である英語又は共通語であるピジン語での文字習得は小学校に通いはじめた児童にとっては困難であり、文字を習得する初期段階においては部族語から始めることが必要と考えている。このため、LAMP センターでは、コモロ州に存在する約 80 の部族語の教材の開発・印刷を行っており、かつて協力隊員が活動していた実績もある。(参考資料(2)「調査写真キ」参照。)

LAMP センターによると、同国における識字教育活動の内容は、各部族語の出版が主であり、同センターはシステムエンジニア隊員の派遣を期待しているが、職種としては、編集か印刷が妥当と考えられる。一方、同地域では他の多くの NGO 等が活動しており、他団体との連携を推進し、また、印刷物を利用した保健衛生や青少年教育の普及という点では、村落開発普及員の派遣が想定される。

同国の識字率向上は急務となっているところ、識字教育に関する国家政策を勘案しながら、引き続き同国からの識字教育に関する状況把握・要請内容を吟味し、また、日本国内の同職種への応募状況を考慮して今後の協力内容を検討する必要がある。

(5) 要請背景調査：私立カビウファ高校（ゴロカ）

東ハイランド州ゴロカの私立カビウファ高校から10月9日付で PNG オフィスに協力隊員派遣要請があり、今般、同校を訪問して要請背景調査を行った。

同校は、ゴロカ市内で活動する協力隊員及び隊員配属先とも面識があり、協力隊に対する理解は高い様子。隊員の派遣要請は、経営難の打開のためにコンピューターコースを開設し、学生を募集しようというもので、コンピューターの専門知識を持った協力隊員の力が必要とのこと。清水調整員が協力隊派遣に係る条件等を説明し、同行した調査団からは、協力隊の概要及び近年のシステムエンジニアの応募状況を説明し、先方の理解を得た。

同校長との面談内容及び校内視察の結果、同校への協力隊派遣について、前向きに検討する可能性があり、今後 PNG 事務所内での協議の結果によっては、もう一度同校を視察の上、13年度春募集で隊員を募集し、適格者が得られれば、当地で新学期が始まる1月にあわせて13年度2次隊での派遣となる可能性が高い。(参考資料(2)「調査写真ク」参照。)

※追記：平成13年度春募集においては本件要請は提出されていない（平成13年6月15日現在）。

(6) ラバウルにおける危機管理体制

1名を除き3地区に分散する隊員は2～3名ずつが居住する各地区では、互いに住居が近くにあり（隣りまたは同居）、各地区が PNG 事務所と HF 無線で連絡できる上、3地区は VHF 無線で相互の連絡がとれるので緊急時にも連絡が取り易くなっている。

また、火山が爆発した時の緊急時体制については、ラバウル市内の3隊員は現地住民と一緒にセント・メリー高校へ避難し、その上で事務所と連絡・避難の指示を受けることになっている。

9 所感：PNG における今後の協力について

(1) 教育分野における協力

教育に関し、PNG では絶対的に教師数が不足している状況により、今後、特に中等教育機関への理数科教師隊員及び職業訓練的な自動車整備・木工等の隊員の派遣が増加されることが予測される。一方、協力隊員募集に関し、現職教員特別参加制度の発足により、今後安定した教員隊員の確保が期待されること

から、今後の PNG における教師隊員の活躍が期待できる。ただし、同国への教師隊員の派遣は不足教員の補充的な位置付けのものが散見される。マンパワー補充型の協力隊員派遣について、その意義は十分認められるが、派遣される協力隊員への依存が生じては本末転倒と思われる。このため、マンパワー補充型の協力隊員派遣に関し、その意義と派遣の最終目的など、概念整理が必要不可欠である。

(2) 識字教育隊員の派遣可能性

識字教育について、レイの LAMP センターでは、部族語の出版活動による識字率の向上が必要という調査結果を得た。ただし、本調査結果は、LAMP センターで実際に行っている業務がこのような内容であることに大いに関係するものと考えられ、仮に、同センターに協力隊員が派遣されるとすれば、職種は編集か印刷が適当と考えられ、「識字教育隊員」よりは識字教育に寄与する他職種の隊員の活動が想定される。いずれにせよ、新規職種の識字教育隊員の派遣に関しては、識字教育の対象言語及び活動の具体的な内容等について、調査を進めて同国の識字教育への協力形態を検討し、同時に識字教育隊員への応募者層及び活動内容を吟味していくことが必要と考えられる。

(3) その他の協力分野

他方、南北を高地で分断され、また、島嶼部の多い PNG では、交通・通信・郵便事情が極めて悪く、例えば首都 POM からニューブリテン島のラバウルまで郵便は約 1 週間かかり、紛失も多い。かかる状況に鑑み、同国では交通・通信インフラの整備が急がれているが、昨今の IT 革命の潮流に合わせて、ネットワークシステム構築等のコンピューターの整備と利用者の拡大が求められている。日本国内ではシステムエンジニアは最も応募者の多い職種のひとつとなっており、同職種での協力も十分考えられる。

(4) 治安状況及び安全対策

PNG の治安状況は安全とは言えないものの、各隊員の自覚によって大きな被害は防止できているものと思われる。ただし、これは被害がないのではなく、多少の窃盗、恐喝等は存在するものの、身体の安全は守られているものである。かかる状況にかんがみ、自ずと隊員の派遣は地方での展開が中心となっていく

ことが考えられ、1人任地をなくして同一地域に数名の隊員を派遣する方針は、安全対策・緊急時の対応においても、また日頃の交流による活動の一層の充実化においても大変有意義であると考えられる。

なお、比較的治安の悪化していない地域があるが、女性隊員の派遣に関しては、派遣されれば治安の悪い地域への出張・外出も想定され、その都度、滞在中の安全確認又は現地隊員のアテンドが必要となれば隊員の業務に支障が出ることも考えられる。このため、女性隊員の派遣について、引き続き慎重に検討すべきである。

以上

参考資料（1）隊員配置図

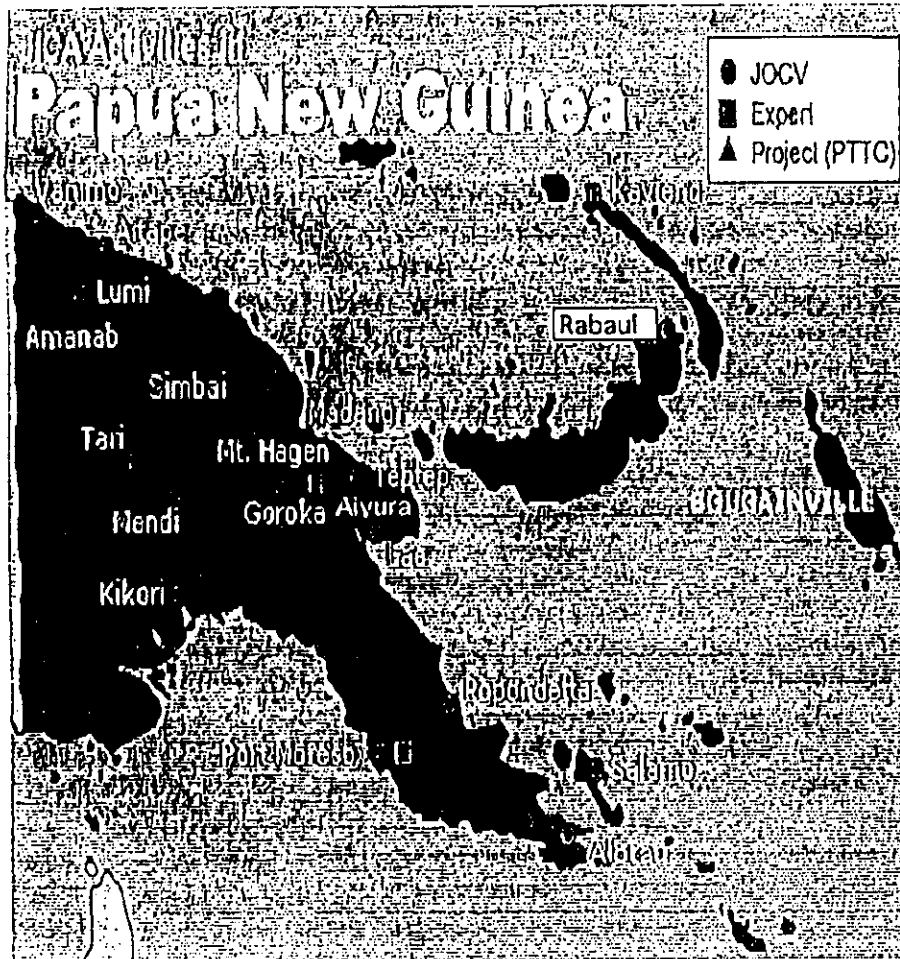
パプアニューギニア国JICA関係者配置図

パプアニューギニア事務所

2000.8.6

派遣専門家 5名

派遣小隊長 53名(女性 0名)



隊次	名前	職種	任地	活動期間	隊次	名前	職種	任地	活動期間
(1) N.C.D. & Central 12名					(5) Sandaun 7名				
専門家	根部 広幸	金融開発	ポビ-	20011001	10-1	坂下 欽洋	体育	パニモ	20010713
専門家	小林 秀夫	援助調整	ポビ	20020523	10-3	野口 高広	村落開発普及	アマナブ	20010404
9-2	芝村 剛	観光	ポビ-	20001208	10-3	五島 聖志	日本語教師	アイタベ	20010404
10-1	西村 祐二郎	日本語教師	ソグリ	20001213	11-1	永井 博人	薬剤師	パニモ	20010712
10-2	岸谷 政浩	日本語教師	ポビ-	20001207	11-2	鈴木 福文	理数科教師	ルミ	20011205
10-2	朝日 孝輔	SE	ポビ-	20001207	11-2	中川 幸彦	理数科教師	パニモ	20011205
10-2	中島 二郎	野菜	ポマナ	20001207	11-3	高橋 賢	SE	パニモ	20020403
10-2	冨田 祐一	農畜	タヒラ	20001207	(6) Western Highlands 2名				
10-3	川畑 博司	SE	ポビ-	20010404	10-1	森並 健二郎	薬剤師	ウナハナ	20000913
10-3	青木 正文	自動車整備	ポマナ	20010404	12-1	岡野照久	薬剤師	ウナハナ	20020710
11-1	土井 隆嗣	SE	ポビ-	20010712	(7) Eastern Highlands 7名				
11-3	杉本 基平	合気道	ポマナ	20020403	専門家	久間 千秋	淡水養殖	アイユラ	20020402
(2) Morobe 8名					10-1	山神 太	鬼屋	ゴロカ	20000930
専門家	小川 慎司	造林・森林管理	レイ	20020531	10-3	井上 真	SE	ゴロカ	20010404
専門家	井上 晴文	機器分析	レイ	20000826	10-3	富山 直人	SE	ゴロカ	20010404
10-1	木原 正志	化学	レイ	20010113	11-2	二瓶 壮三	照明	ゴロカ	20011205
10-2	河原 志一	測量	レイ	20001207	11-3	渡部 貴聡	衣類	ヨンキ	20020403
10-2	村上 茂雄	理学療法士	レイ	20001207	12-1	小山 凱	鬼屋	ゴロカ	20020710
11-1	河津 光成	きのこ	レイ	20010712	(8) East New Britain 8名				
11-3	阿部 良太	SE	レイ	20020403	11-2	渡辺 英彦	造園	ラバウル	20011205
11-3	河合 信行	視覚覚教育	レイ	20020403	11-2	岡 和浩	理数科教師	ヒトメリー	20011205
(3) Madang 6名					11-2	篠崎 一廣	木工	ヒトメリー	20011205
10-1	横田 隆浩	村落開発普及員	テブテブ	20010113	11-2	松尾 実志	野菜	ココボ	20011205
10-2	平泉 登久	自動車整備	マダン	20001207	11-2	橋谷 正広	野菜	イドンガ	20011205
10-3	藤又 祐貴	稲作	マダン	20010404	11-3	渡辺 正樹	自動車整備	ラバウル	20020403
11-1	内藤 厚	理数科教師	マダン	20010712	11-3	飛鳥 隆二	木工	ラバウル	20020403
11-3	吉井 一登	野菜	マダン	20020403	12-1	市岡 康介	体育	ココボ	20020710
11-3	加藤 兵之	村落開発普及員	シンバイ	20020403	(9) New Ireland 1名				
(4) Southern Highlands 4名					10-2	井上 義弘	体育	ケビエン	20001207
8-2	田川 充宣	木工	メンディ	20001010	(10) Gulf 1名				
11-2	北垣 英久	野菜	タリ	20011205	10-1	水田 篤信	理数科教師	キコリ	20001213
11-3	森岡 真文	自動車整備	メンディ	20020403	(11) Milne Bay 2名				
12-1	長野仁志	理数科教師	タリ	20020710	11-1	中村 浩也	野菜	ニサラモ	20010712
					12-1	似吹 紀彦	理数科教師	アロタウ	20020710

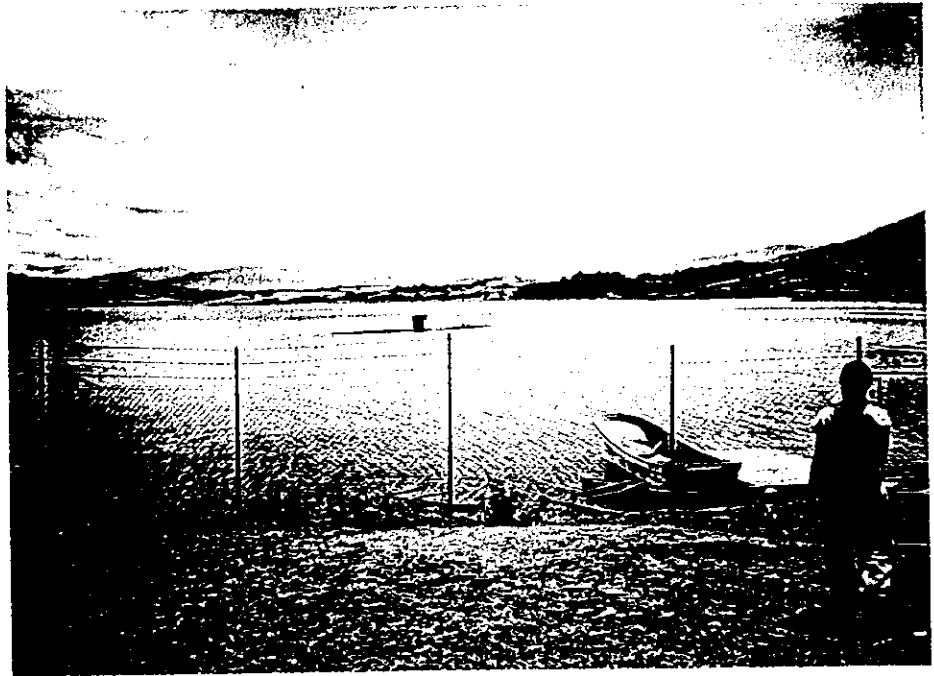
参考資料（２）調査写真ア～ク



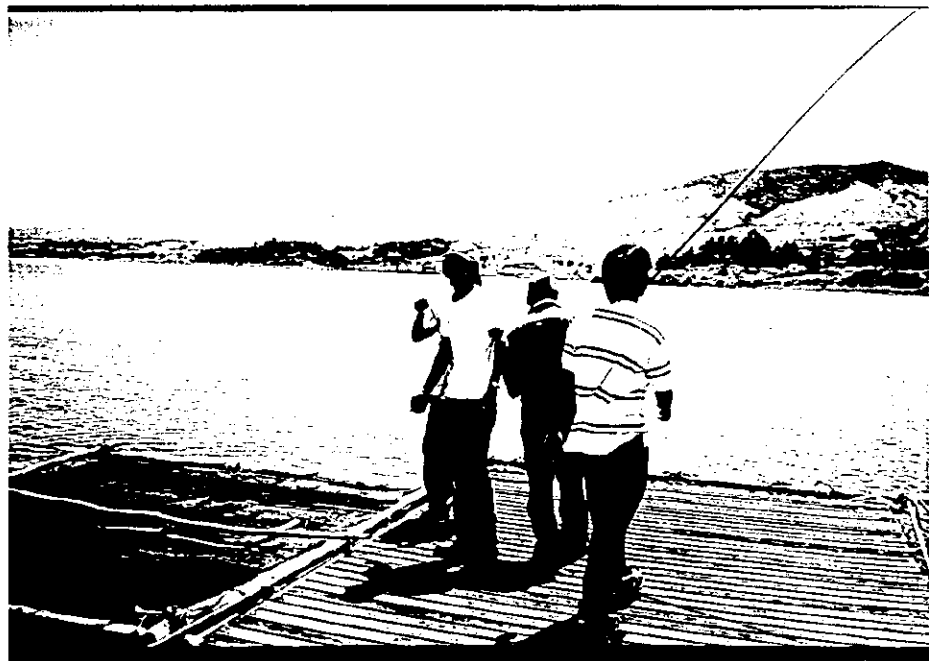
↑丘の向こう側はセトルメント。治安対策のためにフェンスと有刺鉄線が張られている。手前側は University of PNG 構内。

ヨンキー

沖に浮かぶのが
生けす →



渡部隊員→
(左端)



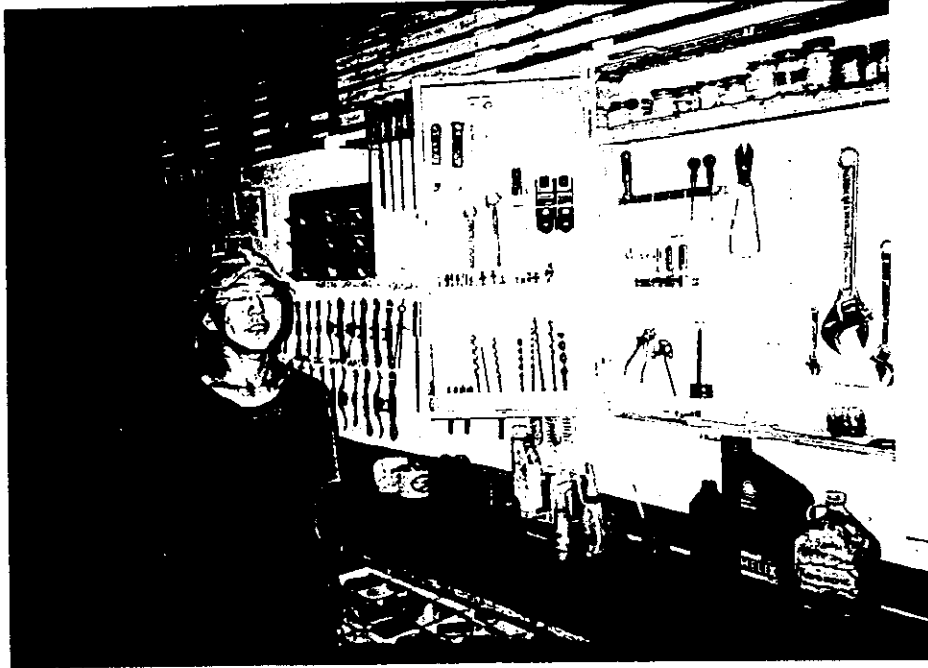
鉍物汚染の疑いのあるヨンキーダム

マラグナ工業高校（ラバウル）

構内の様子（上の写真の右は報告者（田中）、左は同校の Lock 校長）



↓工具置き場の飛鳥馬隊員



↓ラバウル旧市街



篠崎・関
両隊員の住居
(セントメリー高校、
ラバウル南郊)

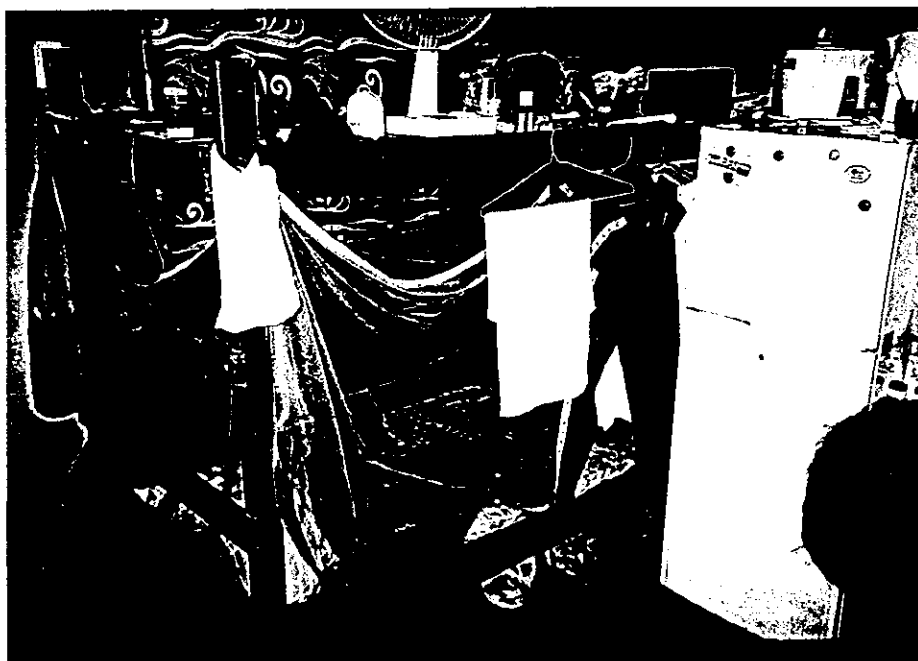


市岡・松尾
両隊員住居

周囲は雑草が
生い茂る →



入念なマラリア
対策 →

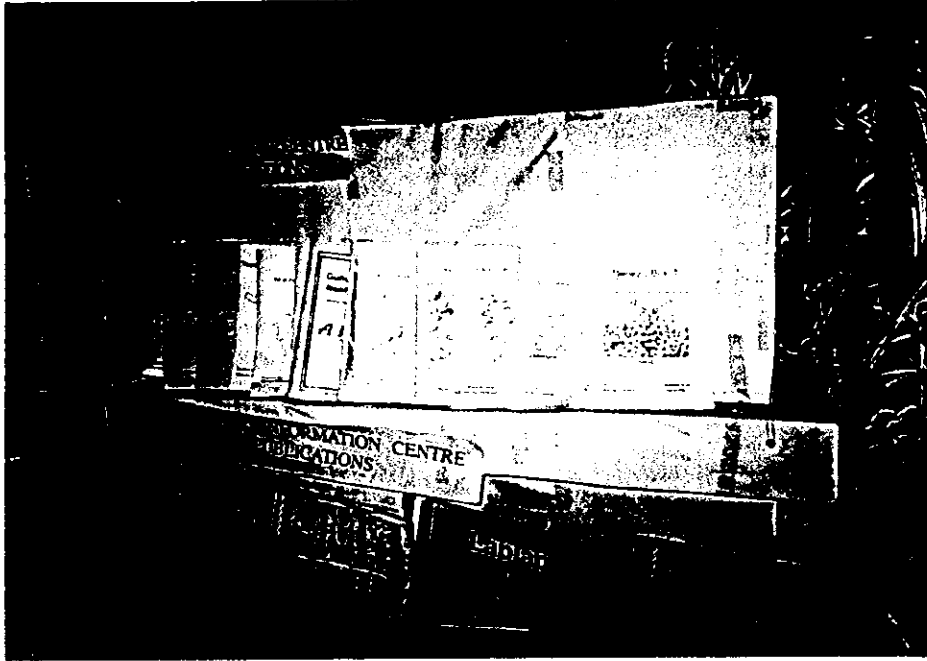


市岡隊員 →



キ

LAMP センター



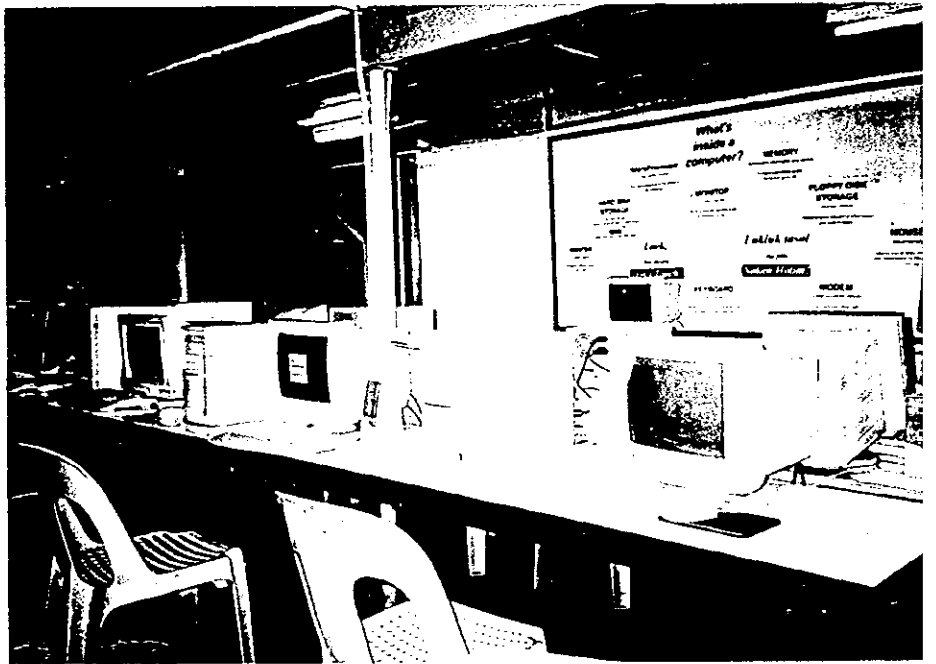
↑ 以前派遣されていた隊員の作品
(出版物)

ウ

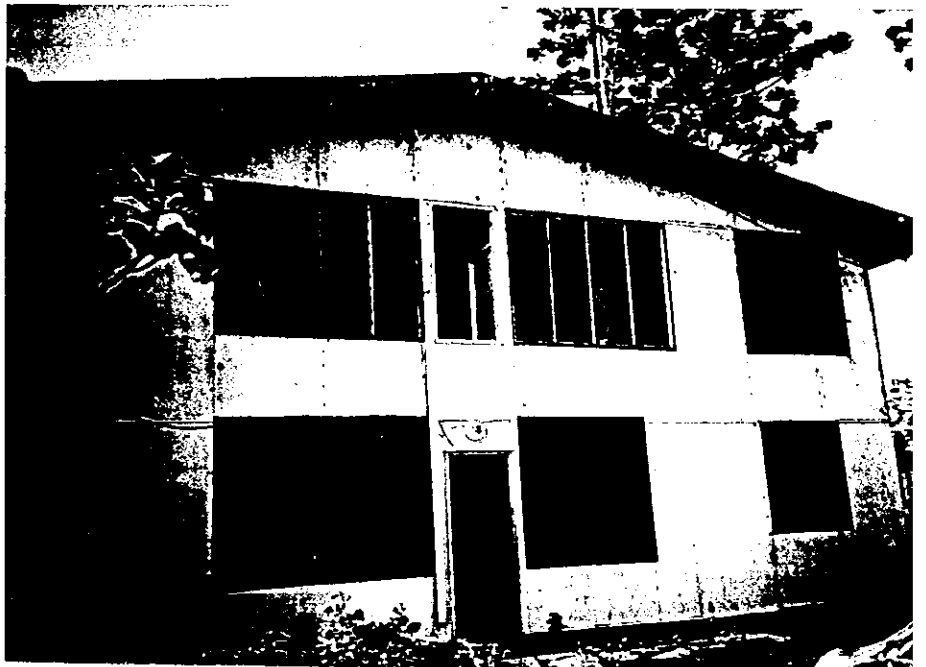
私立カビウファ高校



PC ラボ→
Windows3.11×10 台
Windows95×2 台
Windows98×7 台



予定される隊員住居→
大改築を要す。



Vertical text on the right edge of the page, possibly a page number or reference code.

